

須走口再び

5月12日、GWに続いて再び須走五合目に行ってきました。

本来なら5月3日に開通した富士宮口五合目に行きたいところだけど、前日金曜日の深夜に下見に出かけた丹星 Fukuda さんの情報によると、やはり雪崩の影響だろうか、今年は夜間の通行止め対応が強化されていて**スカイラインの出入口ゲートは上下とも完全に封鎖されていたとの事**。

前回とほぼ同時刻に現地到着。前回とは異なり、新月直前という事もあり既に数名の方が機材を設置されていました。セッティングから見て直焦派の方が揃われたようです。

薄明が終了する頃には丹星の参加メンバーも全員揃い、各々機材をセットされていた。



Photo by クマ

富士山では1年振りとなる **Schwarz150/F8**。
天頂付近が見易いように EM200 に高下駄を履かせてあり、やや剛性が損われるのが難点ですが、うしかい～ヘルクレス～はくちょう付近の重星観望はこれで大丈夫。(のはずでした…)🔥



Photo by うらしまさん

須走名物のつるし雲。湿気を含んだ南西の風が富士山に当たり、山体に沿って下降した風が東側上空で上昇して形成されると言われている。ちょうど須走の上空付近に発生することが多く、今回も日没前に発生して短時間の間にここまで大きくなり、幾重もの層になっているのが判る。さながら「**天空の城ラピュタ**」のようで、富士宮方面からも何度かこの雲を目撃した事があります。

時折吹きつける突風を気にしながら、いつものように車の脇に机と椅子を並べて待機。薄明が終わるまでの間、先客の直焦派の方々も交えて会話を楽しんでいました。八王子在住のこの方は富士山に来る時は須走口がほとんどだそうで、中央道経由だと富士山東側の須走口と南東側の富士宮口では所要時間が1時間は違うし、燃料と時間の節約を考えるとある意味必然でしょうね。

後で判明したのですが、偶然にもこの方と丹星 Fukuda さんがミクシィでのお知り合いとの事。写真の世界では結構著名な方で、クマもそのお名前だけは知った方でした。星屋さんたちって大体が新月時に集うわけで、これまでも結構同じ場所で会ってたりするんだよね。

いつも真っ暗闇の中で遭遇するから、**顔は判らなくても車と機材で判別してたりするし。**

まだ薄明が残る中、そろそろ観望を開始。
隣の Fukuda さんが金星を見て像がボヤボヤと嘆いている。
雪煙の上がる富士山稜線やや上に見えるからまあそれも致し方なしか。
金星は木星と並んでアクロによる色収差の影響が顕著な惑星で、クマは最初から対象から外していた。金星はもう少し内合に近づいたらアポでじっくりと見てみたい。



Photo by うらしまさん

金星よりもやや上空に見えている α Gem も見てみたが、 $\times 80$ でかろうじて分離を確認。
富士山に近いエリアはやはり条件が悪そうです。

風が徐々に強くなっていく中、土星に筒先を向けてみた。気が付けば周りの筒も一斉に同じ方角を向いている。土星はアクロによる色収差の影響が少ない惑星で、Schwarz ならシーイングさえ良ければこれまでの経験上かなりの眺めが期待できる。最初は $\times 80$ で様子を見て、 $\times 150$ 、 $\times 200$ と徐々に引き上げていくが、屈折特有の高コントラストに引き締まった姿が素晴らしく、丹星の仲間が次々と覗きにきてくれる。時折訪れる気流の合間に $\times 300$ まで上げて見たが、**全く微動だにしない像**が見えており、カッシーニ空隙は一筋の線となって全周にクッキリ、環に映った本体の影の鮮やかさ等、その**凄まじいまでの鋭像**に感嘆の声を上げてくれる。



Photo by うらしまさん

土星を観望中のハセガワさん。
これも本当に絵になる一枚です。
今夜も FS128 の威力を存分に発揮された事でしょう。クマも更にこのまま倍率を引き上げていきかけたが、残念な事にこの頃から風が更に強くなり土星が視野の中を暴れ始めたため、土星観望はここで打ち切り。

とにかく風が強く、とてもじゃないがゆっくり観望出来る状態ではなくなってきた。
空の方は雲量が増えたものの、天頂付近だけは透明度の高い空がずっと見えていて、このまま観望を止めるのもシャクだし、とりあえず重星をメインに低倍率でも楽しめる対象を見てみた。

- ・ Σ 1604 今夜の強風下ではややハードな対象でした。
- ・ Σ 1659 南天側は透明度がかなり悪く、15cm でも小さい三角の 12.3 等星がやっと見える程度。
- ・ ζ UMa 何年ぶりに見ただろう。低倍率でも楽しみ多重星としては意外と絵になる星です。
- ・ Σ 1831 重星仲間から教えてもらった対象。広角五重星だが、風の弱まった瞬間に素晴らしい眺めとなった。

シーイングはかなり良いのに、強風は収まるどころか勢いを増すばかりとなり、やがて椅子やテーブルまで転倒する有様となり、しばらく待機したもののさすがにこの強風では観望を続ける気になれず、夜半前には**無念の撤収**となりました。




Photo by うらしまさん

押し寄せる雲。
最後に**星景写真の名手うらしまさん**作による、**当日を象徴する一枚**。わずか1分程度の固定撮影で、押し寄せる雲の動きが如実に表現された作品です。ちょうど土星とししの大鎌が富士山頂に突き刺さるところです。

1 時頃には何とか帰宅。

そのまま風呂に直行して砂ぼこりを洗い落としたのは言うまでもなく、耳の中まで砂が入り込んでいたのにはさすがに参りました。

翌朝車から機材を積み下ろす際、ぬれ雑巾で丁寧に拭いてから収納しましたが、雑巾があつという間に汚れたのには吃驚。もう砂嵐はコリゴリです。 

了